

紫友会 番外編第 12 回

奈良まち歩き (第 3 回)

飛鳥を電動自転車で

3 度目の奈良のまち歩き。今回は、飛鳥をぜひとの要望にこたえ、電動自転車での多くの名所見学が目玉。時々小雨がちらつくこともあったが、曇りで、たまに晴れると暑い。まち歩きには最高の天気でした。では今回も案内人のきめ細かな案内・説明を楽しむことにしましょう。

日時： 2015 年 10 月 10 日 (土)～12 日 (月休日)

集合時間：10 月 10 日東京駅 6:30 頃

集合場所：東海道新幹線改札前

参加者：15 名参加

案内人：梅島雅夫さん (018)

懇親会：10 月 10 日「人吉」、11 日「蔵」

<まち歩き>：

■まち歩き行程

10 月 10 日：東京駅→信貴山→郡山城跡とまち歩き→懇親会

10 月 11 日：飛鳥駅→電動自転車で飛鳥を見学→橿原神宮本殿特別参拝→懇親会

10 月 12 日：唐招提寺、鑑真和上 (御身代わり像) 見学→垂仁天皇陵→春日大社→鹿苑で鹿の角きり→新幹線内で懇親会→東京駅で解散

歩数：10 月 10 日は約 19,000 歩、11

日は約 22,000 歩 (ただし電動自転車での漕いだ回数がどのように含まれているか不明)、12 日は約 21,000 歩でした。3 日間合計で約 62,000 歩。

<懇親会>：

参加者：15 名 (11 日は+1 名)

<スタート>

それではスタートです。写真を見ながら楽しんでください。写真協力は、梅島さん、田中さんと小林です。

挿入短歌は、松木さん作のものです。

10 月 10 日 (土曜)

東京発 6 時 43 分発のぞみ 201 号で京都着 9 時 1 分、大和西大寺 9:44 着。荷物をコインロッカーに預ける。生駒駅経由信貴山下駅から信貴山見学。その後、郡山城跡とまち歩き。人吉で懇親会。

① 京都・奈良に向けて

東京駅 6 時 43 分発。途中品川、新横浜でも乗り込み、14 名で京都へ出発。1 名は先に出かけている。あいにく曇りでかろうじて富士山が車窓から見えた。



京都からは賢島行きの特急を利用。特急券を先発の人が購入してくれていたの、今回はスムーズな乗り換え。車中で案内人が軽い挨拶と今後のスケジュールを説明。



＜引用＞昔々この山で聖徳太子が「寅の年、寅の日、寅の刻」に毘沙門天王の力を借りて物部守屋を討伐し、世の中の平和を取り戻した。そのことにより聖徳太子がこの山を「信ずべき、貴ぶべき山」として信貴山と名付け、毘沙門天を祀るための寺院を創建した。

② 信貴山

信貴山下駅に着く。乗り越しの手続きで少し手間を取る。バスはないとの案内人の予備調査で、タクシーを頼もうとしていると、バスがUターンしてくる。我々団体が駅前でたむろしているので、信貴山に行くのではないかと、顧客優先で戻ってきてくれたという。ありがとう。

信貴山入口に着く。胴の長い白い愛嬌のある顔をした虎（西方守護神白虎）に迎えらる。



鳥居を昇っていく。いろいろな虎が現れてくる。





両側には献燈が整列している。



聖徳太子との関係があるので、馬に乗る聖徳太子が笛を吹く像もある。



融通殿とは名前が良い。



霊宝館で信貴山縁起絵巻を見学。鳥獣戯画があるとの誤解をしていた人もいた。



信貴山縁起絵巻は平安後期の作品。修業僧、命蓮(みょうれん)の物語3巻。以下の絵は展示パネルから撮影。



階段を登り、本堂毘沙門天王を拝む。





隣の戒壇めぐりを経験。真っ暗闇の中を右手で壁を障りながら慎重に進む。＜解説＞戒壇めぐりとは、本堂の地下に回廊が設けられており、入口の階段を下りれば漆黒の闇。壁に手を触れながら歩いて行くと、ご本尊の真下に大きな錠前が取り付けられており、これが極楽の入口の錠だとか。暗闇の中でその錠前をさぐりあてることができたら、極楽行きは間違いないと言い伝えられています。

・滅ぶ日の武将は空を仰ぎしか信貴山城址秋天の下(信 貴山)

記念写真を撮る。



③ 昼食

下山して、川を渡ったところのお店で

昼食を取る。



そば、うどんに、山菜稲荷。カレーを頼む人もいた。ビールも軽く飲む。



バスの時間（12:48）に合わせて昼食を終え、信貴山下駅に戻る。

④ 郡山城跡とまち歩き

次の目的地は郡山。バスで王子駅着、そばの近鉄新王子駅発西田原本駅へ。またほんの少し歩いて田原本駅から郡山駅へ向かう。なんでつながっていないのと愚痴も出る。郡山城跡に向かう。



まず柳澤神社を見学。



そこからは本丸跡には行けないので、内堀に沿って奥に進む。やはり工事中で、本丸には行けなかった。



幕末まで柳沢十五万石の居城として栄えたところ。

追手門前で4名（脱落四天王と名付ける）が戻ってくるのを、しばらく東隅櫓を見ながら待つ。

そばの池の大きな鯉は、口を大きく開けて餌を要求するが与えるものがないので、知らん顔。



次は、郡山まち歩き。

秀吉の弟、大納言豊臣秀長の菩提寺の春岳院。四方仏を組み合わせた珍しい七重石塔（鎌倉時代中期）がある。





明治始めの洋風建築杉山小児科医院。



火見櫓、箱本十三町、浄土真宗光慶寺。



道路の中央に水路が通る紺屋町。この水路はお城の堀とつながっているという。



懐かしの金魚すくいをやっている。掬い網の紙が丈夫そうで、たくさんの小さな金魚を掬い上げている。



奈良時代に薬草園があった薬園八幡神社は、今も境内に五十種余りの薬草見本園がある。



立派なザクロがあった。



古くは日本三大稲荷の一つであった源九郎稲荷神社は白狐で有名。



歌舞伎の「義経千本桜」に登場する源九郎狐のゆかりの神社で、歌舞伎役者の市川猿之助や中村勘九郎が参拝したという。



同泉寺町あたり一帯は江戸時代から遊郭で有名。路地の両側には細い格子の家並みがある。木造3階建ても目印だという人あり。



⑤ 懇親会

16:30 頃の近鉄で近鉄奈良駅に戻る。昨年と同じ人吉で懇親会、超辛口の春鹿を楽しむ。



10 月 11 日（日曜）

終日飛鳥へ。電動サイクルを借りて、ゆっくり見学。自転車に乗れない人は、かめバス（飛鳥周遊）に乗り、集合場所の時間を合わせながら降りて見学。

① 頭塔見学

早朝 6:00 ロビー集合で、7 名の有志だけで頭塔見学に出かける。ホテルで場所を聞いて出かけたが、なかなか見つからない。道路で掃除をしている人に確認してやっと方向が確認される。二つのグループに分かれて捜し歩く。ホテルウェルネス飛鳥路の駐車場に入り、ここが良く見えるとしばらく見学。



2 次会に行く人たち、飲み物などを買ってホテルで懇親をする人たちあり。お疲れ様でした。

・古きロビーに古き松園の絵はありぬ
花嫁御寮はうつむきにつつ（奈良ホテル）



一辺 32 メートルの石積みの上に 7 段の階段状の石積みが高さ 10 メートルに積み上げられたピラミッド状の構造をしている。



② 飛鳥見学(午前)

8:15にロビー集合し、近鉄奈良駅8:35発で大和西大寺、橿原神宮前駅経由で飛鳥駅へ移動。



電動自転車を借りて飛鳥の見学開始。
なお、一人かめバスで楽しむ人あり。
前方後円墳の欽明天皇陵。



吉備姫王墓（欽明天皇の孫で皇極天皇の母）と猿石を見学。



水田から掘り起こされた猿（石造物）は四匹いたが、猿らしいのは一匹か。



自転車で山に向かう。鬼の雪隠を見学。
どのような構造物の一部なのかよくわからない。



次に鬼の俎見学。



この辺は霧ヶ峰と呼ばれ、鬼が済み、通行人に霧を降らせ迷ったところをとらえて、俎の上で料理し、雪隠で用

を足したという伝説があるという。
更に離れたところにあった亀石は人の細工が入っているのが、前面の顔とお尻の鱗らしいところで分かる。



天武・持統天皇陵に向かう。小高い丘の上にある。壬申の乱（672 年）に勝利し、律令制の基礎を築いた天武天皇とその皇后。



高松塚古墳は、薄緑の小山であった。



石室内に描かれた壁画は別の場所で修理されているようだ。壁に鮮やかな男女群像や青龍、白虎、玄武、日・月像、ガラス玉があったと説明がある。



少し離れた文武天皇陵を見学。



そばにミカン山があり、一袋100円で売っている。購入。のどかなところだ。



少し離れた橘寺を目指して移動して

A large, weathered bronze statue of a horse stands prominently in the foreground. The horse is depicted in a standing pose, facing right, with a golden lotus flower emblem on its side. In the background, a traditional Japanese building with a dark tiled roof and wooden structure is visible, surrounded by lush green trees and a paved courtyard.

A photograph showing a stone monument and a sign. The sign, on the left, is white with black text that reads: "三光石" (Three Lights Stone), "聖徳太子降誕経" (Prince of Saintly Virtue's Birth Sutra), "ご講讀の時" (Time of the Lecture), "日、月、星の光" (Light of the Sun, Moon, and Stars), and "を放った" (Released). The monument consists of several large, stacked stones, some of which are inscribed with characters. The scene is outdoors with green grass and trees in the background.

A large, bushy plant with green leaves and numerous pink and white flowers, likely a Camellia, in a garden setting. A white car is visible in the background on the left, and a body of water is on the right.





・酔芙蓉花盛りなるみてらにてうるはしき皇子の像はまします(橘寺)

③ 昼食

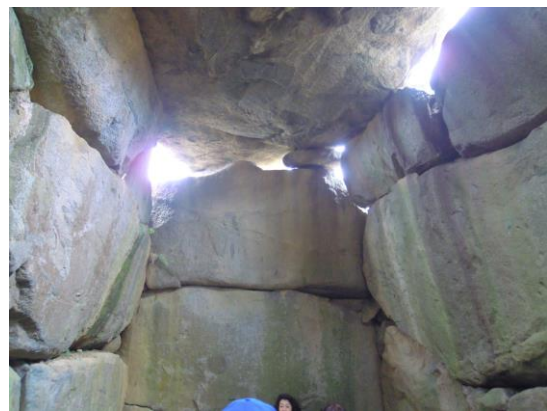
昼食は「あすか野」で、あまご幕の内を楽しむ。古代米は黒紫色。



自転車に乗っているのでアルコールは禁止。ノンアルコールのビールで我慢する。かめバスの一人だけ本物のビールを楽しむ。

④ 飛鳥見学(午後)

食後に、石舞台古墳を見学。まず集合写真を撮り、それから石室内を見学。



巨大な岩石が覆っている。



石舞台古墳の先にある都塚古墳を探す。正月元旦に金鳥が鳴く伝来があり、金鳥塚とも呼ばれる。



本尊如意輪観音像は我が国の塑像の中で最も大きい。



西国七番霊場岡寺は急な坂の先があり、自転車を降りてゆっくりと歩いて登っていく。疲れる。



古くから厄除け信仰のお寺、龍玉を飾る。



岡寺は、四寺院（他の3つは長谷寺・室生寺・安倍文殊院：これらは既に奈良まち歩きで訪問済）の一つである。



・子の無事を祈りて寺の木に懸けし木の鈴風にゆられをらずや（岡寺）



596 年創建の日本最初の寺である飛鳥寺。



本尊飛鳥大仏の説明を聞く。左から見る顔が静かな顔という。高さは約 3m で、当時銅 15 トン、黄金 30 キロで造られた。

・最古とふ大仏のみます飛鳥寺そのシンプルな面差しや良き

そばに曾我入鹿の首塚がある。



飛鳥坐（あすかにいます）神社は結びの神のようで、陰陽石があちこちにある。2 月の第一日曜日には日本 3 大奇祭のひとつ「おんだ祭り」が開催される。





・風を切り明日香をゆけば電動の自転車は相棒のごとく親しき(明日香)

⑤ 橿原神宮本殿

ここから最後の橿原神宮に向かう。途中、道が分からなく二手に分かれてしまう。行先は橿原神宮なので、駐輪場で再開。かめバス一名も集合。



ご本殿特別参拝ということで、明治天皇から下賜された京都御所元内侍所を一回り案内で見学。写真撮影禁止。



創建125年での初めてのご本尊参拝のチャンスでした。



各種つまみ、おでんを楽しみながら、
風の森、篠峯のお酒を楽しむ。

連休中の雑踏や騒音も殆どなく、本当にのんびりと多くの寺院や史跡を見学できた素晴らしい電動自転車での飛鳥めぐりでした。

⑥ 親会

橿原神宮前駅から近鉄奈良駅に戻り、蔵での懇親会に直行。



金堂、鼓楼、鐘楼、講堂を見る。



エンタシス様式の柱は少しふくらみがある。



・金堂の丸き柱に触れてみつ天平の世
よああノスタルジア

鑑真和上御身代わり像を外から見学。



・唐招提寺の名のゆかしけれ大海をつ
ひに渡り来し猛きたましひ

次に御影堂を覗き（今回は見るこ
とができない）、明るい緑の苔が美
しい庭を過ぎて、鑑真和上御廟を一
周して見学。





・一面の苔みどりなる庭奥に閑けきかなや和上御廟は



・石塔はどこか異国の風のあり御廟に
落ち葉を一枚拾ふ



・花の香の線香ひとつ選びたり鑑真和
上が好みしとふ花

その後、少し離れた戒壇を見学した。
なお、戒壇とは、「僧尼となる者に戒
を授けるために作った壇」とのこと。



東京専門学校（早稲田の前身校）の会
津八一歌碑を仲間が教えてくれる。



「おほてらの まろきはしらの つ
きかげを つちにふみつつ ものを
こそおもへ」

・金堂の脇に八一の歌碑あれば手帳に
写すおほてらの歌(唐招提寺)

③ 垂仁天皇菅原伏見東陵

第 11 代垂仁天皇陵に向かって歩きは
じめる。少し雨が降ってきたがたいし

たことがなく良かった。色鮮やかなかかしは、場違いか、飛鳥のはやりものか。



垂仁天皇菅原伏見東陵は、大きな池の中にある。



垂仁天皇菅原伏見東陵に沿って歩いていき、尼ヶ辻駅に着く。

④ 昼食

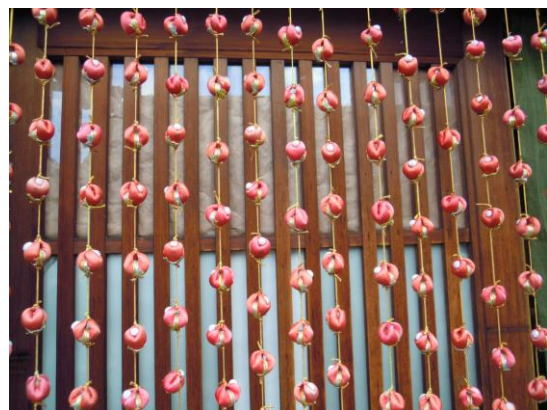
近鉄奈良駅に移動し、そばの中華上海楼で昼食。



食後は、お土産タイム。

⑤ お土産買い物

奈良町で身代わり申を買う人、春鹿での試飲を楽しむ人、中谷堂の草餅を食べる人。



⑥ 春日大社

春日大社の一之鳥居で集合。



二之鳥居そばで鹿の角きり見学の JTB 仲間が集合。



春日大社御本殿は4つの社殿からなる。

・みやしろを目ざすみちみち鳴く鹿の
声の聞こえて奈良の十月（奈良公園）

まだ時間があるので、第六十次式年造替中の御本殿周辺を見学。



⑦ 鹿の角きり

鹿苑での鹿の角きりを見学。



角きり場内に3匹の大きな角を持った立派な鹿が追い込まれる。



縄をかけた人には、鹿の角を押さえることができる資格があるが、鹿の息は大変くさいそうで押さえていてもつらいと紹介。



赤旗を持った勢子たちが鹿を追い回し、「十字」という縄をかけた捕獲具を持った勢子が、鹿の角に縄をひっかける。



一匹ずつ角を切る。2匹目は我々のそばでの角きりで良い写真が撮れた。



捕まえた鹿をゴザの上に寝かせ、鋸を持った神官役が角を切り落とす。



帰りの時間もあるので、2匹目の角きりを見た後は、急ぎ足で近鉄奈良駅のロッカーへ向かう。

⑧ 東京へ

15:30に近鉄奈良駅を特急で京都駅に向かう。



京都で一人残り、さらにサラリーマン時代の懐かしの地を見学予定とのこと。残りは、京都駅経由東京方面へ帰京。

これが最後の奈良のまち歩きになると思うとさびしいが、もう一人でも行ける自信も持てたとの感想もあり、案内人も喜んでいました。

＜今年、市内を散歩したり買い物をしたり利き酒に行ったり、案内なしに何人かの皆様が自由に行動できたことは、案内人としては初期の目的を達成したと思います。再度行ってみたい先があるようでしたらまたご案内はします。是非奈良の魅力をご堪能いただければと思います。＞

来年の今頃、番外編「京都」という話も出ているようです。

